

令和元年（平成 31 年）度事業報告

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

令和元年（平成 31 年）度事業の概要を下記のとおり報告する。

1. 会員の状況

令和 2 年 3 月 31 日現在

会員の種類	当 初	入 会	退 会	現 在
正 会 員	23	1	0	24
賛助会員	45	1	2	44
計	68	2	2	68

入退会内訳

正会員

【入会】(1 社) 日東商事 (株)

賛助会員

【入会】(1 社) 前田道路 (株)

【退会】(2 社) 東レ A C E (株)、日東商事 (株)

2. 社員総会、理事会等の開催

(1) 社員総会

・第 8 回定時社員総会

開催日：令和元年 5 月 31 日 場所：新木場タワー15F A会議室

正会員総数 23 名

出席正会員 20 名（うち委任状によるもの 3 名）

議事（決議事項）

第 1 号議案 平成 30 年度事業報告承認の件

第 2 号議案 平成 30 年度計算書類及び財産目録承認の件

第 3 号議案 令和元年（平成 31 年）度役員報酬承認の件

第 4 号議案 役員選任の件（理事の辞任に伴う補充選任）

（報告事項－第 20 回理事会決議事項）

令和元年（平成 31 年）度事業計画書報告の件

令和元年（平成 31 年）度収支予算書報告の件

◇第 1 号議案から第 4 号議案については、審議の結果事務局原案のとおり、承認可決された。

(2) 理事会等

・社内監査(平成 31 年 4 月 26 日)

監事 2 名による、平成 30 年度の収支及び財産の状況並びに理事の業務執行状況について監査が行われ、いずれも適正であるとの承認を受けた。

・第 21 回理事会(書面決議)(令和元年 5 月 15 日)

上記理事会を決議の省略(書面決議)により開催し、第 8 回定時社員総会への提出議案である「平成 30 年度事業報告及び決算関係書類」の審議を行い、いずれも事務局原案のとおり全員一致で承認された。

・第 22 回理事会

開催日：令和元年 10 月 7 日 場所：雨水協会会議室

理事総数 10 名 出席理事数 8 名 出席監事 1 名

議案(決議事項)

(1) 新入会員選考伺いの件 日東商事(株)様 賛助会員より正会員へ(報告事項等)

(1) 役職理事の職務執行状況報告

(2) 第 35 回技術講習会の開催について

(3) 普及員制度、委員会の見直しについて

(4) プラスチック製地下貯留施設事故について

(5) その他 ①事務局組織について ②雨水日本酒 P J について

◇決議事項については、審議の結果、全員一致で承認可決された。

・第 23 回理事会

開催日：令和 2 年 3 月 18 日 場所：雨水協会会議室

理事総数 10 名 出席理事数 10 名 出席監事 2 名

議案(決議事項)

(1) 新入会員選考伺いの件 前田道路(株)様 賛助会員入会

(2) 普及員制度変更及び共同研究会規約新設承認の件

(3) 令和 2 年度事業計画書及び収支予算書等承認の件

(4) 令和 2 年度役員報酬承認の件

(5) 第 9 回定時社員総会の日時及び場所並びに目的事項等承認の件(報告事項等)

(1) 役職理事の職務執行状況について

(2) 令和元年(平成 31 年)度決算見込みについて

(3) プラスチック製地下貯留施設事故について(その後)

(4) 業務費用未収の件

◇決議事項については、審議の結果、(1)については、全一致で承認可決、(2)～(5)については、事務局原案のとおり承認可決された。

(3) 常設委員会 () は開催回数

① 企画委員会(3回)

委員長：日本工営(株) 高祖成一

② 編集委員会(4回)

委員長：首都大学東京 教授 河村 明

編集小委員会(4回)

委員長：日本工営(株) 萩原 崇

③ 評価認定委員会(2回)

委員長：東京大学名誉教授 虫明 功臣

3. 調査、研究

(1) (都市河川流域の) 水循環系健全化方策の検討

① 建築学会 あまみず普及小委員会

雨水活用を普及させるための手法の検討、資料整備、調査等と併せて、2016年発行の雨水活用技術規準の改定の検討

② プラスチック製地下貯留槽共同研究会による調査研究業務

- ・平成30年度版プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針(案)に基づいた技術評価
取得済プラスチック製貯留構造体の品質確認試験(圧縮試験)を実施(秋田県産業技術センター)
- ・試験施工によるプラスチック製地下貯留槽の土圧等モニタリング

③ これからの流域水マネジメント検討会

(一社)流域水管理研究所が行う、これからの社会情勢や気候変動等を想定した新たな「流域水マネジメント」として「これからの流域水マネジメントの手引き」を作成する検討会にオブザーバー参加。

(2) 雨水貯留浸透施設の効果評価の検討

① 太陽光発電施設設置に伴う流出抑制施設検討業務

- ・仙台ハイランドゴルフ場メガソーラープロジェクトに伴う防災調整池河川協議資料変更業務及び防災調整池排水施設実施設計
- ・FSPS北杜市小淵沢発電所 浸透池容量計算方法の検討(藤巻建設)

② 現地浸透能力調査

- ・「戸田市浸水対策」に伴う現地浸透試験(英設計事務所)
- ・焼却場移転先の地盤透水試験(印西地区環境整備事業組合)
- ・令和元年度貯留浸透施設調査検討 現地浸透試験(英設計事務所)

③ 東京都令和元年度保水能力検討調査委託(その2)

受託者の日本工営(株)の協力会社として参画

④ 空衛学会 建物における雨水対策検討小委員会

局所的集中豪雨への対応策としての雨水利用施設の見直し、建築設備分野における宅地内での雨水の貯留浸透技術及び「雨水利用の実務の知識 設計・施工・維持管理マニュアル(2011年発刊)」改定の検討。

⑤ 世田谷区高橋邸における雨水活用効果に関するモニタリング

(3) 全国における貯留浸透施設普及状況の実態把握と普及方策の検討

① プラスチックおよびコンクリート製地下貯留槽施工実績調査

② GBM(グリーン・ビジネス・マネジメント)共同研究会(都市緑化機構)

グリーンビジネスにおける雨水の貯留・浸透・利用普及の検討及び海外・国内のグリーンインフラ情報の収集。今年度は、緑地の有する保水性能の定量評価を調査研究のテーマとして活動。

③ 戸建住宅への雨水浸透ます設置の普及・啓発

プラスチック・マスマンホール協会との協働で、普及啓発用のポスターを制作し、自治体等へ無償提供し、戸建住宅への雨水浸透ます設置の普及・啓発活動を行った。

(4) 雨水貯留浸透技術のアジアモンスーン地域への展開検討

① 後述する国際会議や国際交流を通じて、情報収集やネットワークの構築を行った。

② JICA「中小企業海外展開支援事業～普及・実証・ビジネス化事業」

国際協力機構（JICA）が推進する下記事業へ外部人材として参画。

・「インドネシア国：膨張性粘土によるインフラ施設被害への多孔質（ポーラス）コンクリート製品導入に関する基礎調査」（令和元年9月完了）：北海道ポラコン（株）

・「タイ国 浸水被害の軽減に寄与するプラスチック製雨水貯留構造体の普及・実証・ビジネス化事業」（令和元年6月より2年間）：秩父ケミカル（株）

③ プリンスパイプ日本技術視察支援(2019.12.3～12.6)

インドの塩ビ管・継手メーカーのプリンスパイプが、雨水利用のための貯留施設等の技術を視察のため来日。屋井常務理事が、会員企業の工場等の視察をアテンドするとともに、会員企業等とのビジネスマッチングを行なった。

4. 技術指針等の整備

・雨水浸透施設技術指針（案）調査・計画編（増補改訂版）の増刷に併せ、追記・修正を行った。（令和元年11月18日増刷）

5. 雨水貯留浸透技術の普及啓発活動

(1) 図書等の発行・頒布

① 季刊誌「水循環 貯留と浸透」第113号～116号

各号特集テーマ

113号「日本の雨水技術の海外展開」

114号「“令和”時代の地下水の課題とその解決に向けた取り組み（その1）」

115号「“令和”時代の地下水の課題とその解決に向けた取り組み（その2）」

116号「雨水貯留浸透とSDGs」

② 雨水浸透施設技術指針等発行図書の頒布

(2) 技術講習会・施設見学会の開催

第35回 雨水貯留浸透技術講習会

開催日：令和元年11月14日・15日

会場：新木場タワー1F大ホール（14日講習会）

受講者数：70名（自治体職員、会員企業等）

『講習会』 令和元年11月14日 9：30～16：30

題 目	講 師
治水行政に関する最近の動向	国土交通省 水管理・国土保全局 治水課 堤防構造分析官 徳元 真一
【特別講演】 浸透能力算定式の原理と応用	(公社) 雨水貯留浸透技術協会 水循環チーフアドバイザー 忌部 正博
【招待講演】 韓国における地域インフラに関する課題解決のための調査研究・技術開発の推進	(韓国) 忠北国立大学 教授 Dr. Seung-Maeng
特集【総合浸水対策における雨水貯留浸透】	
都市の浸水対策の推進について	国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部流域管理官付課長補佐 長谷川 広樹
東京都の進める総合的な治水対策	東京都 都市整備局 都市基盤部 調整課 施設計画担当 野内 博光
千葉市雨水対策重点地区 整備基本方針について	千葉市 建設局 下水道建設部 雨水対策課 主査 森山 茂信
鶴見川流域・総合治水の40年	慶応大学名誉教授・NPO 法人鶴見川流域ネットワークキング代表理事 岸 由二
減災型治水システムの実現可能性 ～滋賀県の取組から～	滋賀県立大学 環境科学部 准教授 瀧 健太郎
より良い雨水対策のための提言 ～シン雨水研究会の取組～	水のいのちとものづくり中部フォーラム事務局・一般社団法人名古屋環未来研究所 参与 吉川 開二

『見学会』 令和元年11月15日 9：30～15：30

・埼玉スタジアム周辺治水施設、芝川第二調整池、あさかりードタウン

参加者：25名

(3) 普及・啓発のための雨水貯留浸透施設の展示・セミナーの開催等

① 第23回東久留米市環境フェスタ(2019.6.8～6.9)

「東久留米市環境フェスタ ～きてみて アクション 環境フェスタ～」

上記フェスティバルが東久留米市庁舎にて開催され、当協会は例年通り協賛団体としてイベント等に協力し、会員企業と共同で、「雨水浸透ます」及び雨水貯留浸透技術に関するパネル、パンフレット等の展示を行った。

(フェスタ参加者：延べ1500人)

② 第12回雨水ネットワーク全国大会 2019 in 福岡(2019.8.23~8.24)

「SDGs から水循環のこれからを考える

～風かおり、緑かがやく、あまみず社会の実現に向けて～

平成20年の第1回東京(墨田区)に始まり、福岡市、松山市、大阪市、東京、仙台市、福井市、愛知県(長久手)、東京(世田谷区)、東広島市、東京を経て、第12回目を迎えた今年は、改めて福岡(福岡大学)で開催された。今大会は、雨と水循環をテーマにワールドカフェ方式での議論や話題提供、全体討論が行われた。2日目の午後には、雨水活用普及啓発施設やあめ庭などの見学を行った。屋井が大会実行委員を、大西が東京事務局を務めた、また、雨水協会として大会への協賛を行った。

(大会参加者: 延べ150名)

③ 第4回 法典フェア(2019.9.29)

船橋市下水道河川管理課の依頼により、標記フェアにて、雨水浸透ますの模型展示、貯留浸透及び水循環に関するパネル展示を行い、フェアに参加した市民にPRを行った。

(展示ブース立寄者: 90名)

④ 第20回 法典地域祭(2019.11.10)

船橋市で開催された「第20回法典地域祭」に、船橋市下水道河川管理課とともに出展。雨水貯留タンクと雨水浸透ますの模型等を用い、雨水の貯留浸透技術等のPR活動を行った。

(参加人員: 約600名)

⑤ 第1回 ARSIT Learning Salon(2020.1.15、1.17、1.21)

会員を対象に雨水活用の技術や関連知識の向上と参加者相互の交流による新たな事業展開等を目的に、定期的な勉強会を企画。第1回として、当協会発行の「雨水浸透施設技術指針(案)調査・計画編の改定」について屋井常務理事が解説し、「ドイツの最新雨水事情」についてNPO法人雨水まちづくりサポート理事長神谷博氏が話題提供した。

(参加者数: 延べ30名)

⑥ 気候変動と雨水活用シンポジウム&セミナー(2020.2.19)

「ドイツ雨水規格から日本の雨水の基準と制度を考える」

法政大学エコ地域デザイン研究センター、日本建築学会あまみず普及小委員会、NPO法人雨水まちづくりサポート及び当協会の4団体が主催し、ドイツのfbr(雨水中水利用専門家協会)の副代表を招き、ドイツの先進例を学ぶとともに、日本の雨水基準・制度化と目指すべき方向性を考えるシンポジウムとグリーンインフラをトピックとした技術交流セミナーを開催した。

シンポジウムの事例報告で、屋井常務理事が日本の「雨水貯留浸透技術に関する基準等」を紹介、またパネルディスカッションのパネリストとして参加した。

(参加者数: 約120名)

(4) 雨水貯留浸透技術に関するPR及びパンフレットの作成・配布

戸建住宅への浸透ますの普及を図るため、プラスチック・マスマンホール協会と共同で、雨水浸透ますの普及啓発用のポスターを制作。制作したポスターは、「下水道展'19横浜(2019.8.6~8.9)」のマスマンホール協会の展示ブースにて初披露され、複数の自治体から関心が寄せられた。

(5) 雨水貯留浸透技術に関する問い合わせへの対応

行政、民間企業、コンサル、個人等からの電話、メール等による問い合わせ、相談等に対応した。

* 経産省通商政策局(2020.2.12)

中東アフリカ課の職員3名に対し、クウェートにおける雨水対策に導入可能な本邦技術についてのヒアリングがあり、屋井常務理事が対応した。

(6) 雨水貯留浸透技術に関する社外講演及び学会発表(海外含む)

① 市民団体や関係機関等の依頼による講演活動

* 城東リプロン・台風やゲリラ豪雨による冠水・浸水対策工法セミナー(2019.5.17)

講師：屋井常務理事

テーマ：「雨水環境の変化と雨水対策の事例紹介」

聴講者：自治体含む関係者 約50名

* 雨水貯留浸透製品工業会講演(2019.6.28)

講師：屋井常務理事

テーマ：「国内外における雨水貯留浸透の重要性」

聴講者：同工業会メンバー 約30名

* アフガニスタン国カブール市技術者UR施設の視察案内及び講義(2019.6.21)

日本の雨水貯留浸透施設やその技術を紹介することを目的に、日本の浸透施設の草分け的事例である昭島つつじがハイツの雨水貯留浸透施設について視察案内及び講義(講師：忌部水循環アドバイザー)を行った。

(参加者：約10名)

* 第12回雨水ネットワーク全国大会2019 in 福岡(2019.8.23~8.24)

上記大会のワールドカフェ形式での討議において、屋井常務理事と大西部長が以下の話題提供をそれぞれ行った。

・土壌(ランドスケープ土)を用いたRain Capture(蓄雨)

・雨水活用を取り巻く法令や制度：(大会参加者：約80名)

* 第27回日本雨水資源化システム学会(2019.11.8~11.9)

屋井常務理事が理事(海外連絡委員長)を務める日本雨水資源化システム学会の第27回学会大会が島根大学松江キャンパスで開催された。研究発表会では、「UR賃貸住宅における雨水流出抑制効果の新たな評価手法」について、田川技術部主任が都市再生機構との連名で発表を行なった。

(参加者：約50名)

* 松山市河原学園雨水活用ワークショップ(2019.11.22、12.6、12.13、2020.1.24、1.31)

建築士を目指す専門学校生約70名を対象に、雨をコントロールする機能を持ち、雨を楽しみ、雨水活用の大切さが学べる「雨水ミュージアム」の提案を行なうワークショップが実施され、Web授業とアイデアの中間発表(12/13)や最終発表(1/31)が行なわれた。このワークショップの技術指導として、大西が参加した。

***「あなたの暮らしに雨水を」アイデアコンテスト（2019.12.10、12.22）**

主催：NPO 法人雨水まちづくりサポート、後援：国土交通省水資源部で上記コンテストが実施され、雨水活用の実践アイデアを「家でできること」「建物・施設でできること」「まちでできること」という3つのテーマで募集（2019年11月1～末日）。それぞれのテーマごとに優秀作品を選出、表彰を行った。このコンテストに、屋井常務理事が審査員として参加（12/10）し、表彰式（12/22）では、優秀者の表彰及び受賞作品へのコメントを行った

*** ICHARM 講義（2019.12.20）**

水災害リスクマネジメント国際センター（ICHARM）の海外向け修士課程の学生11名に忌部水循環チーフアドバイザーが「日本の都市河川における統合的流域管理」と題して、鶴見川流域センターにて講義を行った。その後、一行（ICHARM職員3名、通訳1名を加えた15名）は鶴見川多目的遊水地、川和遊水地、高橋裕先生宅雨水利用の施設見学を実施した。

*** 都市緑化技術研修会（2020.1.23）**

（公財）都市緑化機構が行政担当者や関連企業向けに毎年開催の都市緑化技術研修会において、屋井常務理事が「豪雨と緑地・オープンスペースのかかわり」と題して講演した。（参加人数約70名）

② 海外国際会議等での発表

*** 韓国忠北国立大学セミナー（2019.5.22～5.24）**

当協会の技術講習会での交流をきっかけに、雨水貯留浸透技術に関するMOUを締結した同大学より、屋井が招待され、教職員及び学生に向けて、「Importance of Rainwater Infiltration and Storage」と題して講演した。大学からは、「環状交差点における雨水利用プロジェクト」が紹介され、その現地見学も行われた。（参加者：14名）

（7）雨水貯留浸透技術のデータベースの作成及び情報提供

- ・プラスチック及びコンクリート製地下貯留槽の施工実績調査の実施
- ・ホームページ上で、「雨水・再生水利用施設等データマップ」を公開

6. 雨水貯留浸透技術評価認定

平成8年6月1日に雨水貯留浸透技術評価認定制度がスタートし、昨年度までに技術評価認定書44件、OEM版3件、技術推薦書6件、製品評価書19件を交付した。今年度は下記のとおりである。

また、平成30年度版プラスチック製地下貯留浸透施設技術指針（案）の規定に基づき技術評価認定取得済プラスチック貯留構造体の品質確認試験（圧縮試験）を行い、試験結果に基づき品質確認書を発行した。

【令和元年度評価認定書交付実績状況】

＊技術評価認定

新規評価認定は無し

＊製品評価認定

- ・「エバタ プラスチック製パネケーブ沈砂槽」 エバタ (株)
- ・「2重管 JS ドレインプラス」 サムシング (株)・城東リプロン (株)

＊その他

有効期間更新、内容変更に伴う認定

技術評価認定 3 件

- 「ニューブラ工法」(内容変更) 秩父ケミカル (株)
- 「クロスウェーブ工法」(追加更新) 積水テクノ成型 (株)
- 「シンシンプロック槽」(更新) シンシンプロック (株)

製品評価認定 3 件

- 「OK ザールフィルター」(更新) (株) オーイケ
- 「ゴミトールプラス」(更新) エバタ (株)
- 「除塵管理柵」(更新) (株) トーテツ

【令和元年度品質確認済一覧】

No	会社名、	型式	認定番号	評価認定工法の名称
1	シンシンプロック(株)	720-2NB	1号	シンシンプロック槽
2				
3	(株)明治ゴム化成・タキロンシーアイ(株)	A9	6号	アクアブラ工法
4	積水テクノ成型(株)	CW-HA	9号	クロスウェーブ工法
5		CW-HD		
6		CW-S		
7		CW-N		
8	秩父ケミカル(株)	NT	12号	ニュートレンチ工法
9	アロン化成(株)	MA-1	16号	MA-1工法
10	城東リプロン(株)	720RF型	19号	ハイドロスタッフ工法
11		720NS型		
12		RF+NS型		
13	秩父ケミカル(株)	PD-A	20号	ブラダム工法
14	日東商事(株)・(株)日東ジオテクノ・(株)佐藤渡辺	AE-1	26号	ジオブールAE-1工法
15	(株)IHIインフラシステム	GEOCUBU	27号	GEOCUBE(ジオキューブ)工法
16	(株)トーテツ	AP	29号	アクアパレス工法
17	リス興業(株)・(株)クボタケミックス	S-II	30号	スタジアム工法
18	タキロンシーアイ(株)	RS-N	31号	レインセーブN工法
19	エバタ(株)	SP	34号	エバタプラスチック製雨水貯留浸透工法
20		PC		
21	秩父ケミカル(株)	NP	42号	ニューブラ工法
22		NPライト		
23	天昇電気工業(株)	TRS	43号	テンレイン・スクラム工法

7. 雨水貯留浸透技術に関する関係機関への協力、提言等

① 公共機関への協力提言等

主に地方自治体からの雨水貯留浸透技術に関する問い合わせ、来訪等による相談に対応した。

② 海外からの調査団等の受け入れ、国際交流等

- * アフガニスタン国カブール市技術者への視察案内及び講義（2019. 6. 21）
- * インド・プリンスパイプ社日本技術視察支援（2019. 12. 3～12. 6）
- * ICHARM 講義（2019. 12. 20）

③ 建築学会等外部組織との連携による普及・調査研究業務の実施

- * 建築学会 あまみず普及小委員会
- * 都市緑化機構 GBM共同研究会
- * 空衛学会 建物における雨水対策検討小委員会

※令和元年(平成31年)度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書については、「事業報告の内容を補足する要な事項」が存在しないので作成しない。